

生活科 第1学年 「しげんとともだち(あきからふゆへ)」

授業者 太田市立沢野小学校 竹内 知津

矢羽 裕佳

1,本時のねらい

発見したこと、感じ取ったことを伝え合い、学び合うことができる。

校内から秋に対する情報を得て、自分たちの秋の活動をより深めたいという意欲を持つことができる。

2,視聴覚機器の位置づけ

本単元で使用したスタディーノートとは、自分の意見や調べ学習で活動した内容を文章で表したり、絵や制止画、動画、音声など取り込むことのできる、ノート機能がついた教育用グループウェアソフトである。作成した情報は、電子メールや電子掲示板、データベース機能を使ってクラス内外の人とも簡単にやりとりが可能である。

今回は取り組んできた秋の活動をまとめ上げる段階でまず使用した。自分の文字で書き表すよりも美しく仕上がり、見直して自分なりの考えを深めたり、他の人にも見てもらいたいという意欲を持つことができた。

次に、全校で見られる電子掲示板を使用し、まとめた内容を、上級生や他の学年の先生に見てもらった。児童は返ってきた返事から自分の考えをより深める資料としたり、上級生や他の学年の先生を身近に感じることで、人とのつながりを考える良い機会となった。

また、このソフトを使用したことにより、発表したいという意欲が強まり、教師側が意図したものよりも積極的に深まった発表会とすることができた。

3,授業の概要

本時は、クラス全体で取り組んできた秋探しや遊びなどの秋の活動を、8つのグループがそれぞれスタディーノートにまとめ上げ、「秋と遊んだよ発表会」として友達に伝え合うという形式で行った。司会進行を児童が行い、教室の前にはノートパソコンを設置してスタディーノートのページをプロジェクター

からスクリーンに投影した。

児童の発表は、グループの一人がパソコンを操作し、必要なファイルを切り替えつつ、まとめ上げたページを投影し、それを見ながら他の児童が発表していった。パソコンを操作する児童は、今までの活動からかなり習熟していたため、緊張しながらも手際よく扱うことができた。



スタディーノートを利用して、児童が活動してきたことをまとめたページは、表紙として題名やメンバーの顔写真の画像が貼り付けてあったり、秋探し、遊びなどの紹介をデジタル画像の貼り付けや、ひらがな、カタカナで文字を打ち込んで作成したものである。文字色を変えてあったり、絵が描かれてあったりと、児童なりの工夫を凝らし表現されている。

授業の後半は、校内の電子掲示板に載せたグループごとの疑問や質問に対する、上級生や他の学年の先生からの返事の紹介を行った。そして、その返事をくれた人をゲストティーチャーとしてクラスに招き、児童を前にして話をしてもらった。児童にとっては第三者的な立場の人からの情報収集、及び交流となり、新たな発見や驚きを得たようである。そしてそこから自分たちの活動をより深めていこうとする意欲を十分に持つことができたようである。